

成果指標				
成果指標	介護予防ケアプラン作成者数のうち、更新申請で非該当となり、二次予防事業へ繋げた人の割合			
指標設定の考え方	要介護状態にならないように、介護予防ケアプランを作成し、その効果により更新申請で非該当となった人。更に二次予防事業へ繋げることにより介護予防支援を継続して実施できる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	0.5	0.5	0.5	0
実績	0	0.03	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	介護予防ケアプラン作成者のうち、次の更新で非該当となった人の割合が増えた。介護予防ケアプランが、個々の状態に沿った目標・内容であったため身体状況が改善され自立に向かったと考えられる。また、非該当のうち一人だけ二次予防事業に繋がり、継続した介護予防支援ができた。再び介護認定を受ける状態に戻らないよう、またそれを遅らせるよう介護予防事業の利用を勧め健康状態の維持を図る必要がある。通いの場や生活支援サービス等、高齢者が生きがいを持って生活できる社会資源の発掘や利用促進にも努めたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	介護予防ケアプラン作成者のうち、次期更新で非該当となった人の割合が増えており、事業が有効に機能していると考ええる。今後も通いの場や生活支援サービス等の高齢者が生きがいを持って生活できる環境を作っていく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	